

学校関係者評価報告書（令和7年度）

学校法人 明日香学園 専門学校明日香美容文化専門学校は令和6年度の自己評価を実施し、規定に基づき学校関係者評価委員会を実施した。

- ・評価実施日：令和8年11月24日（月）
- ・学校関係者評価委員：関係企業委員2名、卒業生1名（計3名）

- ① 美容室経営者
- ② 美容室経営者
- ③ 美容室従業員

（1）教育方針

評価概要	自己評価
①教育理念・方針・目標がしっかりと定められているか	教育目標を常に意識してもらうように学校 1F ロビー、ならびに各教室に掲示もしている。入学時、進級時には各学年においての目標達成のために取り組むべき行動を明確化している。
②教職員・学生に周知されているか	教職員には教務会議、Slack 等にて情報伝達を常に行い、学生へは朝終礼、SNS 等を通して周知している。また、必要に応じて学生との個別面談も行うなど、学生との対話を大切にしている。
③輩出すべき人材像に沿っているか	各種会議等での教職員間での話し合いに加え、関係各所からもヒアリングを行い、美容業界が望む即戦力人材について話し合っている。その人材像に近づけるように教育目標やその具体案を検討している。

【課題】

- ・毎年目標が定まっていない学生が若干名いるため、指導を行う上でやる気を持たせることに苦勞している部分があるため、更に話し合いを続けて意見をまとめ、理想的な美容師像をさらに明確化にし、指導していく必要がある。そして、就職へと学生を導いていけるよう目標を明確にしてしっかり伝えていく。

【改善案】

- ・定期的に実施される教務会議以外に、各学科、学年における会議を頻繁に持ち、学生の資格取得、就職へ向けた意識向上ために教職員間でも情報を共有する。

【特記事項】

- ・ 学生が理解しやすいよう学年ごとに細かい教育目標を示し明確にしている。

「学校評価委員会評価及びコメント」

◆美容室経営者

- ・ 近年は美容師を志す学生が増加傾向であり喜ばしいことであるが、美容師免許を取得したにも関わらず、美容業界を離れて別の職業に就いた人材も少なからずいることが残念である。美容師免許が必須の職業であるため資格取得に向けての取り組み、結果は評価しているが、美容師という職業の素晴らしさを在学中より伝えてもらいたい。

◆美容室経営者

- ・ 美容師免許取得以外に実践的な技術をカリキュラムに取り入れていることはとても評価できる。最近は美容師として美容室に就職するのではなく、まつ毛エクステンション等のハサミを持たない美容師が増えているため、再びハサミを持った美容師が増えることを願っている。

◆美容室従業員

- ・ 美容学校では様々な美容技術を学べて、昔に比べて恵まれているなど感じているが、多くの技術を学ぶことで方向性が定まらない学生もいるため、先生たちの指導で早い時期に方向性を導いてほしい。

(2) 学校運営

評価概要	評価
①学校として進むべき方向、ビジョンは策定されているか	美容師国家資格取得という大きな目標があるため進むべき方向は明確になっているが、即戦力人材の育成のための教育目標は、美容業界関係者等からのヒアリングをもとに毎年改善をしている。
②学校全体で共通の意思決定を共有することで、運営を実践しているか	定期的に学年、学科教員間でのミーティングを行い、意思の共有、決定はしやすい状況である。また、常勤、非常勤講師間でも、必要な情報は共有しているが、個人情報の取り扱いには十分注意するように指示をしている。
③適切な改善は行われているか	会議や、教職員間での Slack を通しての情報共有の場が増えているため、学校全体に、連絡、報告ができているように思われる。

【課題】

- ・ 美容師国家資格取得という大きな目標により、毎年が同じサイクルの繰り返しであることで、「学校全体として進むべき方向、ビジョン」を意識することが少なくなっているため改善をする必要がある。

【改善案】

- ・教職員間の報告・連絡・相談の体制は年々改善されているため、各教職員がビジョンをより明確に持った上で学生指導を行うとともに、非常勤講師とも情報を共有して教職員が一丸となって学生指導に取り組むよう改善する。

「学校評価委員評価及びコメント」

◆美容室経営者

- ・美容師試験やコンテスト等でも高い実績を残していることに大変驚いています。先生方の学生指導の賜物であるとともに、大分県内でも多くの卒業生が経営者として美容業界を盛り上げてくれていることに感謝を申し上げる次第です。

◆美容室経営者

- ・昔と比べて、2年間でこれだけの多くの美容技術を学んでいることに驚きですが、現場が望んでいる技術も年々変化するため、引き続き現場とのコミュニケーションを大切にして情報収集を続け、より良いカリキュラムになれば良いと思います。

◆美容室従業員

- ・美容師として必要な技術に加えて、やはり現場ではコミュニケーションの部分も大切になってきます。最近はおとなしい学生も多いですが、表に立つような機会が増えて、自分に自信が持てるような人材の育成を望んでいます。

(3) 教育活動

評価概要	評価
①教育課程を編成する体制は、整えられているか	教務会議やカリキュラム編成委員会を開催し、美容の現場で活躍する方からの意見や教職員の意見を取り入れている。学校側から一方的に指針を出すだけでなく、非常勤講師を含め教職員の意見や自主性も受け入れる姿勢で体制を整えるよう意識している。
②時勢に沿ったカリキュラムの改変は行われているか	教務会議、カリキュラム編成委員会、学校評価委員会等に加え、美容業界関係者へのヒアリングにより、時勢に沿った実践的なカリキュラムや学生に必要な内容になるよう改変を行っている。
③授業評価を適切に行っているか	年に2回、前後期の学期終了時に、学生に授業評価アンケートをとり、その結果を各講師へフィードバックしており、評価を受けての改善点等を話し合い共有する機会を設け、授業改善へ役立てたい。

【課題】

- ・学科授業においては、担当講師の指導や定期試験の出題傾向に統一感がないことがあり、指針を明確に示し、必要に応じて情報共有、相談する体制を整える。

【改善案】

- ・授業評価アンケート内容については、変更や追加部分が必要であれば適宜変更していく。アンケート内容は学生に理解しやすい内容にはしているが、無記名式のアンケートであるため、詳細部の記入がない回答も少なからずある状態である。

評価については授業の質を向上させるよう、非常勤講師も含め結果を共有して話し合う時間を設けることとする。

「学校評価委員評価及びコメント」

◆美容室経営者

- ・授業評価アンケートの実施はとても良いと思う。学校は毎年の流れが同じであるためマンネリになりがちな部分もあると思うが、学生からの生の意見を聞くことで、先生達にも緊張感が生まれるし、学生にとっても先生に普段伝えにくいことも知ってもらえる良い機会だと思います。

◆美容室経営者

- ・美容室現場の声を聞き、シャンプー技術等の実践的な技術を学ぶ時間が増えたことは良いことだと思いますが、学生が学びたいと思っている技術を授業アンケート等を通じて確認してもらい、今後更に充実したカリキュラムになることを願っています。

◆美容室従業員

- ・学生の意見に耳を傾けるのはとても良いことだと感じました。美容室の現場でも、若いスタッフへ一方的な教育になりがちな部分もありますので、参考にさせていただきたいと思っています。

(4) 学習成果

評価概要	評価
①資格取得の目標は定められているか	美容師国家資格取得という大きな目標があるため明確に設定されている。美容を業として行うためには美容師免許の取得は必須であるため、資格取得への意欲は毎年高い状況である。
②就職率は向上しているか	美容業界への就職率は毎年高い状況であるが、ビューティーアドバイザー、まつ毛エクステンションに関する採用枠が少ないため、早い時期に活動を始めるよう指導している。これからも同様の希望者が増加することが見込まれているため、更なる就職先の開拓が必要である。
③卒業生の離職率に関し、卒業生並びに就職先との連絡を密に取っているか	離職率は例年並みであるが、早期で退職する学生も数名いて残念である。就職してからの仕事への向き合い方についても、学生時代に更に指導の必要があると考える。卒業生からは頻繁に連絡があり、毎週数名は学校に来訪してくるため、卒業生就業状況について把握はかなりできている。

【課題】

- ・美容室以外の美容関連職種の就職先の開拓について。
- ・早期退職者の防止策について。

【改善案】

- ・入学時、進級時に個別面談を実施し、学生の進路希望の調査は行っているが、進級時には希望職種が変わる学生もいるため、進級時の面談時期を早める等の対策を講じた上で、美容室以外の美容関連職種の採用情報を把握し、企業訪問等を通じて開拓を行うこととする。
- ・早期退職をした卒業生、企業の双方にヒアリングを行った上で、ミスマッチを防ぐため、在学中より就労に対する意識を高めるよう指導する。

【特記事項】

- ・卒業生ならびに企業との連携はとれているため、退職原因の共有はできている状況である。

《学校評価委員評価及びコメント》

◆美容室経営者

- ・今は就職先の選択肢が増えたため、学生がどの美容業種に就くか迷ってしまうのではないかと思います。近年は、美容室を退職した人間が、まつ毛エクステの仕事に就くことも多く、選択肢が増えたことは良いですが、退職の理由となってしまう部分もあるので、継続して働き、時間をかけて技術を習得する大切さを理解してもらいたいです。

◆美容室経営者

- ・今の美容業界は以前に比べると労働条件も恵まれ、スタイリストデビューまでの期間も短くなっているが、それでも早期の離職者がいることが残念である。2年間学校で学んで、美容師を目指して美容師試験に向けて努力していた時のことを思い出して、退職を思いとどまってほしいです。

◆美容室従業員

- ・同期でも美容の仕事を辞めて、別の職業に就いている人が多くいます。私の時代は「美容師＝美容室」しか選択肢がなかったですが、選択肢が増えたことにより、苦勞して取得した美容師免許を生かせるため、良い時代になったと思います。

(5) 学生支援

評価概要	評価
①学生に対する経済的な支援体制は確立されているか	去年同様、奨学金、各種特待生制度、保護者支援制度等、支援体制を多様にとっており、充実したサポートを確立している。
②学生対応に係る人員配置は行われているか	事務職員、教員ともに少ない人員が対応しているが、一人一人の教職員が、常勤、非常勤に関わらず、親身になって学生対応や指導を行い、サポートするよう心掛けている。
③就職に対する支援体制は整えられているか	担当、副担任に加え、教頭が企業とのパイプ役として支援する体制を確立している。就職支援については教職員が各々に動くのではなく、情報交換や共有、相談を行い教職員全体で連携して支援を行っていきけるよう努めていく必要がある。

【課題】

・常勤講師や担任の進路指導への取り組みについて、業界関係者とも更に綿密に連絡・連携を取っていく必要がある。

【改善案】

- ・就職に関して、美容関連職種の情報収集に努め、早期に就職活動に臨めるよう情報共有の協力体制を見直す。
- ・ビューティーアドバイザー、まつ毛エクステンション等の人気職種は採用の枠が少ないため、常日頃から企業と連絡を取り合い、求人の動向を注視する。

【特記事項】

- ・経済的支援は、比較的充実している。

《学校評価委員コメント》

◆美容室経営者

- ・近年は人件費や物価の高騰等の理由から、企業側の採用基準がシビアになっていると思います。学生も説明会や企業見学、実習などでその企業のことを知った上で、このお店で働いてみたいとの強い思いを持って試験に臨む学生が増えることを願っています。

◆美容室経営者

- ・美容室からの多くの求人情報が届いているということで、情報が多すぎると学生も困惑してしまうかと思います。県外企業であれば移動の負担から直接見学に行くことは難しいかと思いますが、学生からの希望を聞いた上で情報を集約して学生にアドバイスをすると良いと思います。学生には後悔のない進路選択をしてもらいそうですね。

(6) 教育環境

評価概要	評価
①インターンシップ及び校外（学外）授業について、各業界との協力体制が整っているか	サロン実務実習は企業との連携はとれているため、快く協力していただける体制は整っている。ただし、他の美容学校の実習と重複することがあるため、早期に実習先を決定する必要がある。
②防災に関して、定期的に避難訓練を実施し、安全体制が確立されているか	防災担当者を新たに設け、年に1度の避難訓練の実施や防災マニュアルの用意など安全体制の確立に努めている。資料配布や掲示など、意識を高めるよう日頃からさらに呼びかけていく必要がある。
③施設整備は教育上の必要性に対し、十分に整備されているか	老朽化による設備の整備は定期的に行っており、防災に関する設備の整備、点検、修善に関しては日頃から定期的に行っている。

【課題】

- ・県外企業での実習を希望する学生については、他の美容学校の実習と重複していることで受入困難な場合がある。

【改善案】

- ・入学後、早期の時期に実習先希望の調査を行い、早期に依頼をすることとする。

【特記事項】

- ・県内、県外において、繁忙時期にも関わらずサロン実習生を引き受けてくださる企業様が増えて、大変助かっている。

《学校評価委員コメント》

◆美容室経営者

- ・在学中に2回のサロン実習を行っていることはとても良いことであると思います。実際に美容室に立ち、1日のサロンワークを体験することで、学生にも緊張感が生まれ、就職後の働いているイメージも持ちやすくなると思います。学生にはただ行くだけではなく、自分の進路選択に役立つ貴重な経験であることを伝え、それを理解した上で実習に臨んでもらいたいです。

◆美容室従業員

- ・毎年実習生が来るのを楽しみにしています。掃除や洗濯、お茶出し等が主な業務となっていますが、緊張して実習に臨んでいる様子を見ると、自分の若いころを思い出して懐かしく感じてしまいます。多くの学生が様々な美容室に実習に行っているとのことですが、それぞれのお店によって内容に違いが生じる可能性もありますので、事前に統一した実習内容を伝えておくほうが良いと思います。

(7) 学生募集

評価概要	評価
①学生募集に対し、広報活動・ガイダンス参加・SNS 発信・オープンキャンパス等、適切な活動が行われているか	従来の学校訪問、ガイダンス、オープンスクールに加え、SNS を中心とした広報活動も強化している。パンフレットや SNS を使用して、充実したスクールライフを発信しており、更に充実した内容を発信して、高校生に本校の良さを知ってもらい、募集につながるようアプローチをする必要がある。
②在校生、卒業生から後輩への呼びかけを促進しているか	在校生や卒業生からの推薦で本校受験を決めた学生が毎年増加している。特に卒業生からの紹介が多く、引き続き卒業生が高校生に勧めてくれるような学校作りを目指して、学生指導や行う所存である。
③学費は適正か	適正。減免や支援制度を使用すれば、家庭においての学費負担の軽減につながっている。

【課題】

- ・学生募集について、広報担当が主となって情報共有を行い、教職員、在校生が一丸となり、学校全体として取り組めるよう、協力体制を整える。

【改善案】

- ・SNS の更なる充実化。

《学校評価委員コメント》

◆美容室経営者

- ・近年は学生数が増加傾向であるということで、普段からしっかりと広報活動に臨まれている成果であると感じています。大変であると思いますが、引き続き今の状態が続くことを願います。

◆美容室従業員

- ・毎回 SNS の更新を楽しみにしています。美容室でも SNS を活用した集客が多くのお店で行われているため参考にさせていただきます。従来の広報活動に加えて SNS の更新もあり負担も大きいと思いますが頑張ってください。

(8) 財務

評価概要	評価
①健全な学校運営を行うための適正な予算管理と、適正な予算執行を行い、検証しているか	消耗品や必要備品は必要に応じて補充しており、前年度の予算を確認しながら適正に執行するように心がけている。年間の予算を事前に把握し、現場実習等に充てる予算を検討する場をさらに設けたい。
②経費の無駄を省くための指針は定められているか	各々の教職員が無駄のないように日頃から意識しており、引き続き無駄を省けるものがないかを検証していく。
③会計監査は適切に行われているか	税理士と経理担当で会計監査を行っている。監査報告書もホームページに掲載している。

【課題】

- ・実習を伴う授業が多いため、水道光熱費等で無駄な支出の出ないよう更なる管理が必要である。

【特記事項】

- ・引き続き、施設使用においての細部の規定を教職員間で共有する。

《学校評価委員コメント》

◆美容室経営者

- ・水道光熱費の削減は美容室でも同じです。支出を抑える取り組みは継続しましょう。

(9) 法令等の遵守

評価概要	評価
①交通事故、犯罪及び犯罪巻き込まれ、その他近隣の住民に対して、迷惑をかけないなどの周知は定期的に行われているか	大半の学生が公共交通機関を利用しての通学であるが、交通法規の改正（特に自転車）については、掲示をして周知している。
②個人情報の保護が適正に行われているか	特に問題は起きていないが、SNS等の使用も多いため、個人情報の取り扱いには引き続き注意していく。
③就業規則は、全教職員に周知徹底されているか	周知徹底には多少の改善の余地がある。徹底を目指し、再確認も含めて見直す必要がある。

【課題】

- ・学生が交通事故や事件に巻き込まれた際の対応方法をマニュアル化し、有事に対応できるような体制を整える。

【改善案】

- ・時間外労働については厳しく管理しているが、時間外労働をなくせるよう更なる業務の効率化を検討する。

【特記事項】

- ・個人情報の管理に USB メモリの使用は禁止しており、個人情報に関するデータにはパスワードをかけることで、誰でも個人情報を閲覧できないようなシステムを設置している。

《学校評価委員コメント》

◆美容室経営者

- ・今の学生は就業時間、福利厚生等をとても確認する時代になりました。美容室でも勤務時間外での拘束時間が短くなるよう取り組んでいるお店も多くなっていますので、より良い環境で働けることが一番だと思います。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価概要	評価
①ボランティア活動、大分駅南口周辺の清掃活動は定期的に行われているか	近年は授業時間数の関係で駅周辺の清掃活動はできていないが、近隣の中学校、高等学校の職場体験の受け入れは積極的に行っている。
②地域の方との交流は行われているか	大分七夕まっりの「府内戦紙」において、出場される方のヘアメイクの施術を毎年行っている。
③ハローワーク等と連携して、職業訓練などのキャリア教育を積極的に実施しているか	委託訓練生の受け入れを毎年行っている。

【課題】

- ・地域の方々との交流の機会や場所を増やすべきである。

【改善案】

- ・以前は本校最大のイベントである ASUKA ビューティーフェスティバルに地域の方をご招待していたが、参加 定員の関係で現在は困難な状況であるため、地域の祭事等の協力依頼があった際は積極的に協力し、地域交流の機会を増やしていきたい。

《学校評価委員コメント》

◆美容室経営者

- ・地域のイベントがコロナ禍前と同じくらいに戻ってきて、様々なイベントが開催されています。美容の技術は多くのイベントでも重宝されていますので、様々な活動に参加して学校のことを多くの方に知ってもらうことが良いと思います。